

目的 被服を構成するのに必要な背肩幅について、その採寸・作図法を各式について比較し、着用実験を行つて、採寸部位と適合性の関係を考察したので報告する。

方法 背肩幅の採寸法・作図展南について現在行われている各式につき調査し、健康な女子大生(18~22才)50名について背肩幅を各式により採寸し、その寸法の相違を比較し、上記50名を対象に着用実験を行つた。この着用結果をさらに検討するため、やせ型・普通型・肥満型の三体型各3名について測定・着用実験を行い、背肩幅採寸法とその適合性について考察した。

結果 背肩幅の測定結果は肩先臬間(A)においては①オワ頸椎臬を通るとき平均40.0・②正中線上でオワ頸椎臬と肩先臬高度の二分の一臬を通るとき40.3・③正中線上で肩先臬高度と同高度を通るとき41.8cm, 肩先臬より袖ぐり線上で1cm後方を肩縫い目臬としたとき(B)、前記①オワ頸椎臬を通る間では39.5・②正中線上でオワ頸椎臬と肩縫い目臬高度の二分の一を通る間では39.3・③正中線上で肩縫い目臬高度と同高度を通る間では40.4cmとなり、(A)・(B)とも①②の測定部位においては差は小で、①③・②③とも差は大であることがみとめられた。また着用実験結果から、型紙(原型)上の背肩幅の位置は、測定における(A)②の正中線上で、オワ頸椎と肩先臬高度の二分の一臬の比較的近い位置に分布していることがみとめられた。